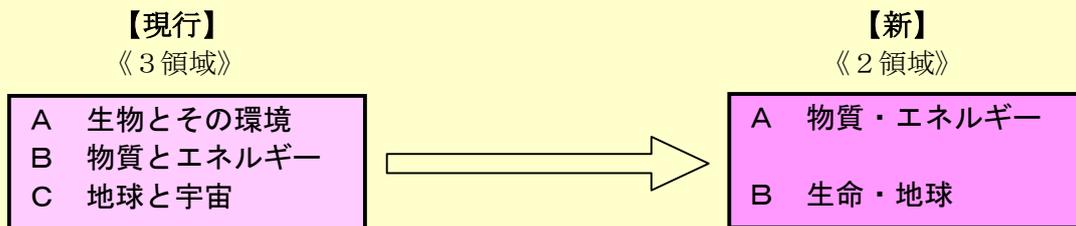


領域構成は、どう変わったのか。

現行学習指導要領の3つの領域構成は、昭和43年告示の学習指導要領で初めて採用されたものである。これは、小学校の子ども達の発達段階やものの見方、考え方の特性に沿ったものであった。

今回、さらに、子どもが自ら条件を制御して実験を行い、規則性を帰納したり、一定の視点を意識しながら自然を全体と部分で観察して、特徴を整理したりする子ども達の学び方の特性とともに、中学校の「第1分野」、「第2分野」との整合性も加味して、新たに「物質・エネルギー」、「生命・地球」の2つの領域構成となった。



それぞれの領域の学習の特徴や指導の重点等は、以下のようにまとめることができる。

	「物質・エネルギー」	「生命・地球」
学習内容の特徴や指導の重点	物質の性質やはたらき、状態の変化について観察、実験を通して探究したり、物質の性質などを活用してものづくりをしたりすることについての指導に重点を置いた内容構成	生物の生活や成長、体のつくり及び地表、大気圏、天体に関する諸現象について観察やモデルなどを通して探究したり、自然災害などの視点と関連付けて探究したりすることについての指導に重点を置いた内容構成
科学の基本的な見方や概念との関係	「エネルギー」や「粒子」といった科学の基本的な見方や概念を柱として内容が系統性をもつようにした。	「生命」や「地球」といった科学の基本的な見方や概念を柱として内容が系統性をもつようにした。
新しい学習内容の例	風やゴムの働き、物と重さ、電気の利用など	自然の観察、人の体のつくりと運動、太陽と月など
課題選択の見直し	現行で課題選択となっている振り子と衝突については、振り子は引き続き小学校で指導し、衝突は中学校に移行する。	現行で課題選択となっている、卵の中の成長と母体内の成長、地震と火山はいずれも指導する。